文章の見本となる「型」を用いた書く活動
――中学校国語科における「書く力」の育成――

学籍番号　179977
氏　名　成瀬　佑太
主指導教員　柏木　賀津子

1．先行研究と目的

近年の国際社会では、論理的思考能力（考える力）が必要となっている。論理的思考能力は、言葉の論理を通して身に付けることが効果的である。しかしながら、現状の国語科指導では、何を書くべきか論理的に考える方法が指導されていないことが課題である （文部科学省,2018)。学び方や知識の獲得方法を習得させる学習観を大切にしているフィンランド・メソッドでは、学力に課題がある生徒に対して、型を提示することとそれを活用する作業手順を示すようにしている（田中,2009）。そこで本研究では、生徒への書くことの意識の変容を把握するため質問紙調査と『文章の見本となる「型」を開発し、授業に取り入れた書く活動』によって生徒の書く力を高めることができるか検証することとした。

2．対象者と授業の手立て

文章の見本となる「型」を用いた書く活動の実践授業は、3 つの時期に分けて実践した。対象は、大阪市立 A 中学校の生徒である。文章の見本となる「型」を用いた書く活動を、平成 29 年度 10 月に 1 年生 2 クラスに 4 回ずつ実施した。平成 30 年度 6 月に 2 年生 2 クラスに 6 回ずつ実施した。平成 30 年度 10 月に 2 年生 2 クラスに 5 回ずつ実践した。対象生徒は、2 年間の同じ生徒を対象に実施した。書く活動の採点は、ルーブリック評価基準を作成し、筆者と第三者の採点で統一を持たせた。文章の見本となる「型」をもちいた書く活動を基本学校実習Ⅱでは、①型提示前（型なし）→②型提示後（型あり）、発展課題実習Ⅰでは、①型提示前（型なし）→②型提示後（型あり）、発展課題実習Ⅱでは、①型提示前（型なし）→②型提示後（型あり）→③型除去後（型を抜く）で書く活動を行った。

2．基本学校実習Ⅰ・Ⅱ

基本学校実習Ⅰでは、国語科の授業を中心に観察を行ったところ、見本を提示して手紙の書き方を指導し、見本となる手紙を提示することで生徒は真似て書くことができていた。

基本学校実習Ⅱでは、『食感のオノマトペ』を実践し、「マッピング」と文章の見本となる「型」をもちいて、「食レポをしよう！」という書く活動【①型提示前（型なし）→②型提示後（型あ

り）】を２回行った。授業では、食べ物のオノマトペを連想させる活動を行い、生徒の発想を豊かにし、「食レポをしよう！」の書く活動を行った。書く活動では、思考ツールを用いて生徒の考えを引き出し、食べ物の食感を伝える書く活動を行った。ルーブリック評価をもちいて、２回の書く活動を比較したところ、「マッピング」から考えを引き出すことはできたが、得点に有意な差は認められなかった(z = .41, p = .68)。結果から、「型」の提示方法に工夫が必要だと考えられた。

3．発展課題実習Ⅰ

発展課題実習Ⅰでは、『短歌の世界』『短歌十首』を授業し、「型」をワークシートに提示して、「鑑賞文を書こう！」という書く活動【①型提示前（型なし）→②型提示後（型あり）】を２回行った。授業では、短歌をイメージやすいように写真や映像を提示し、作者がどのような想いで短歌を詠んだのか、生徒に発問しながら行った。書く活動では、好きな短歌を一首選び、その短歌について感じたことを書く活動を行った。ルーブリック評価をもちいて、２回の書く活動を比較したところ、生徒は考えを書くようになり、語彙が豊かになる様子を見られ、得点にも有意な差が認められた(z = 3.53, **p = .000, r = .60)。しかし、書く活動を２回しか行っていないため、「型」を提示することで書くことができたのは必然だと考えている。

4．発展課題実習Ⅱ

発展課題実習Ⅱでは、『ポテト・スープが大好きな猫』を授業し、「型」をワークシートに提示して、「猫の気持ちになって書こう！」という書く活動【①型提示前（型なし）→②型提示後（型あり）→③型除去後（型を抜く）】を３回行った。授業では、登場人物の描写や言動に着目して板書を行い、どうしてそのような言動や行動を取ったのか生徒に発問をしながら行った。書く活動では、教材文の登場人物である猫の視点になって、物語の場面から猫の気持ちを考えて書く活動を行った。ルーブリック評価をもちいて、３回の書く活動を比較したところ、生徒は考えを書くことができ、「型」を提示した活動後に「型」を抜いて書く活動でも同等の得点であり、３回の書く活動に有意な差が認められた($x^2(2) = 11.3, p = .004$）。また「型」を提示した活動と「型」を抜いた活動を比較したところ、有意な差は認められず($z = .29, p > .05$）、「型」を抜いても生徒は、文章の書き方を保持して考えを書くことができたと考えられる。

５．結論

本実践研究を終えて、文章の見本となる「型」を提示することで、自分の考えや意見を書くことができ、生徒の書く力を高めることが実証されたと考えている。実践を通して書く力を高めるためには、2 つのことが必要だと考えられた。まず 1 つ目は、「型」をただ提示するだけではなく、ワークシートに記載することで生徒は見て書くことで意見や考えを書くことができ、語彙の数が豊かになる様子を見ることができた。2 つ目は、文章の見本となる「型」を提示した活動後に「型」を抜いて書く活動を行ったところ、同等の得点であり、「型」を抜いて書く活動を行っても文章の書き方を保持して、自分の考えや意見を書くことができていた。